

豊実地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成28年8月23日（火） 19:00～20:15

2 会 場 豊実地区公民館

3 出席者 地元出席者 25名
市側出席者 15名

深澤市長、羽場副市長、高橋防災調整監、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、綱田都市整備部長、中島総務部次長、谷村農林水産部次長、木村教育委員会事務局次長、渡邊秘書課長

<事務局>福島協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

（中核市推進局長）※チラシに基づき説明

5 第10次総合計画についての説明

（企画推進部長）※チラシに基づき説明

6 地域の重要課題について

1 「市道宮谷布勢線の抜本的改良整備について」の具体的整備計画について地元豊実地区に対する説明をしていただきたい
--

<地域課題>

国体道路（鳥取鹿野倉吉線）の布勢から東桂見集落までは歩道つき2車線が整備されています。

また、宮谷から大桝集落までは歩道なしの2車線の道路となっています。この2区間の間の道路は、豊実、松保両地区を結ぶ幹線道路としては狭く、車両（大型車）が擦れ交わられる道路ではありません。朝夕には自転車通学する学生もいるため、大変危険な状態の道路状況にあります。

以前（平成26年度）にも要望していますが、両地区住民の安全を考えた場合、道路改良をお願いする次第です。この件につきましては両地区から国土交通省にも要望しています。

<担当部局の所見等>

【都市整備部】

平成27年6月に宮谷、大桝、東桂見地内において鳥取西インター開通後の交通量調査を実施しました。テニスコート横では午前7時から午後7時の12時間で車両991台、自転車23台、歩行者5人が往来しています。

また、湖山消防署に緊急出動経路の確認をしたところ、本路線を多く利用しているとの

回答を得ています。

このような状況から、道路ネットワークの強化と安全・安心の確保を図るため、大桸地内から東桂見地内のテニスコートまでの未改良区間を整備計画路線に位置付ける方向で検討してまいります。

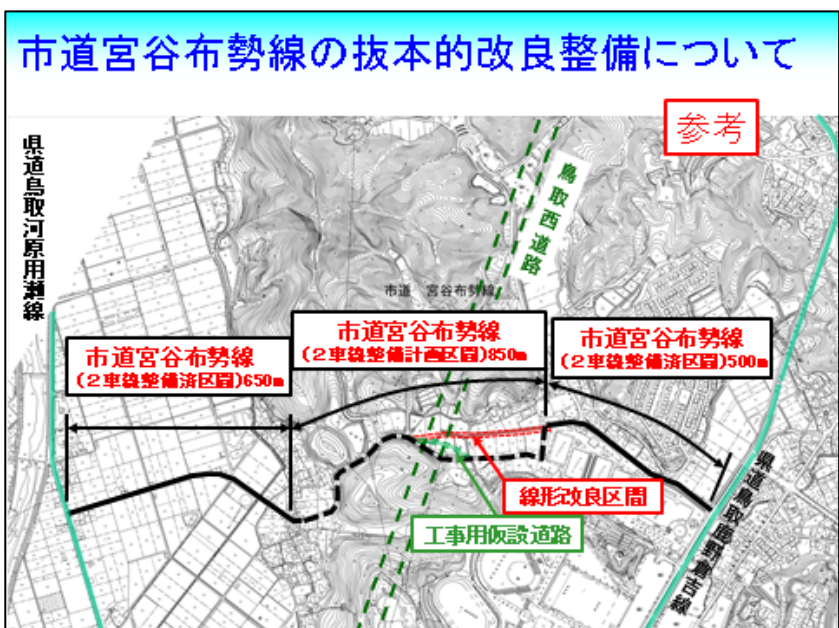
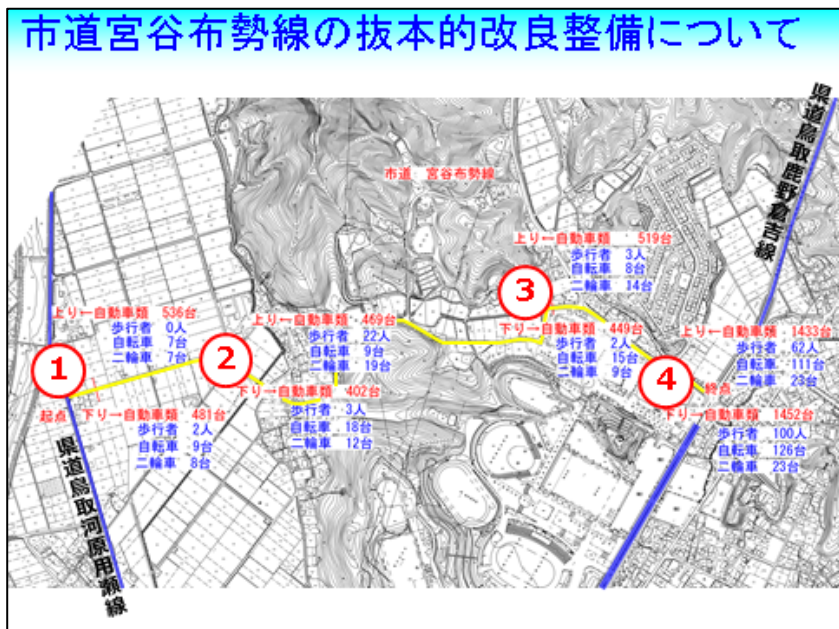
事業を進めるためには、東桂見地区及び大桸地区などの地権者のご協力が必要となりますので、今後、計画案等を示し、協議をしていきたいと考えます。

(都市整備部長)

県道鳥取河原用瀬線から県道鳥取鹿野倉吉線との間の4地点について、午前7時から午後7時までの12時間、交通量調査を行いました。そのうち、例えば④の地点ではコカ・コーラウエストスポーツパークテニスコートに出入りする自動車や団地に出入りする自動車があります。テニスコート横の③の地点の交通量は、12時間で自動車が991台、自転車が23台、歩行者が5人という結果でした。また、緊急車両の通行頻度について湖山消防署に問い合わせたところ、平均して年間70回程度は、緊急出動時にこの路線を通行しているとのことでした。

以上の結果のとおり、この路線は千台近くの交通量が発生し、緊急車両等の重要な経路にもなっていますので、道路のネットワークの強化、また安心・安全の確保などの観点から、特に大桸から東桂見地内までの約850mの未改良区間を「整備計画路線」に位置付ける方向で検討しています。

市道宮谷布勢線の両側650mと500mは、ともに2車線として整備済みですが、この約850mの整備計画区間については埋蔵文化財の包蔵地であるため、一部国土交通省が文化財調査をし



ていると聞いています。

また、東桂見にお住まいの方は、当時の布勢総合運動公園の造成の際、相当の用地買収を経ておられ、農地がかなり減っています。大桧や東桂見の皆様の協力を得ながら進める必要がありますので、道路整備に当たっても必要最小限の用地でできるよう工夫するなどの課題を踏まえながら、今後、地元の皆様と協議していきたいと考えているところです。

(地区会長)

整備する方向で計画するとのこと、ありがたく思っています。

東桂見側や大桧側の地権者のこともあると思います。また、我々としても理想的な道路のイメージを持っていますので、実施に当たっては意見を出していきたいと思っています。

この問題については、豊実地区自治会で河川道路整備対策特別委員会を立ち上げています。野坂川の整備の問題もありますし、道路の問題もあります。道路も、この市道宮谷布勢線だけではなく、県道整備についても県と協議を進めています。

今後、協力をいただかなくてはならないこともたくさんあると思います。地区公民館長が特別委員会の委員長ですので、具体的な連絡は、委員長を通してお願いします。

(都市整備部長)

承知しました。

(特別委員会委員長)

地区では、まず初めに国土交通省に要望しました。というのは、国土交通省からこの道路を工事用道路として使いたいと話があった時、今の幅員では10t車は通行できないと言いました。すると、国土交通省が、工事用道路としての改良ならしてもよいと言われました。一昨年の年度末です。そのことがあり、国土交通省に、鳥取市と話してもらえないかと要望し今日に至っています。どうしても必要な道路なので、今年度も地域の課題として挙げました。

工事用道路として使うとなれば、改良する時間的な余裕がないと思うのです。できれば、今日でなくてもよいので、大まかなスケジュールを教えてくださいたいと思います。

(都市整備部長)

国土交通省は現在埋蔵文化財の調査をしておられ、調査終了後に工事されることになると思います。

ただ、西道路の青谷から吉岡インターまでは平成29年度末に竣工と聞いていますが、県や市からは吉岡から西インターまでを一括供用していただけるよう要望していることもあり、市道の改良を待つことによって西道路の工事の進捗に影響が出ることも懸念します。

まずは西道路の工事の段取り等との調整をさせていただきながら、市としても整備計画路線に位置付ける方向で検討を進めたいと思います。その中で、国土交通省が仮設道路として整備した部分について、そのまま使用できる所があるかといったことも含めて、段階的に検討していくべきであろうと思っています。

いずれにしても、地域の皆様にご相談しながら進めていきたいと思っています。

7 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

豊実地区グラウンドは、豊実地区が豊実村だった頃からあります。ちょうど豊実地区の中心にあり、豊実地区民にとって、なくてはならないグラウンドです。豊実保育園の園庭でもあり、面積は合わせて約2,050m²あります。平成22年度に、地区住民と保育園の保護者とで、鳥取方式の芝生化を実施しました。

豊実保育園の園庭部分の芝の肥料散布や冬芝の種まき、水やりなどの維持管理は業者によって行われています。園庭以外の残りの部分の維持管理は、地区住民で行っています。芝生化した当初の取り決めにより、園庭以外の部分については地区が管理をするということで、協働で行っていきましようという話になっていたようです。

地区管理部分の芝刈りは、地区住民が週2回2名ずつのローテーションを組んで行っています。現在は15名のボランティアがいます。水やりは、7月から9月の間は区長会と消防団にお願いして、週2回、早朝に各集落当番制で行っています。消防団は、日曜日にポンプで放水をしています。保育園の園庭部分はスプリンクラーが設置してあって毎日散水していますが、地区管理部分はスプリンクラー設備がないので、地区住民のボランティアに頼っています。暑い時期に出勤前に散水に来てもらっていますが、1時間程度はかかるようです。

特に今年は、7月下旬から8月中旬まで全く雨が降らなかったもので、同じ面にある芝生でありながら、園庭部分は青々としているのに、地区管理部分は枯れたような状態と、非常に差が出ています。いつ枯れるかと、非常に心配しています。豊実地区グラウンドは園庭としても使用していますし、地区の運動会やグラウンドゴルフ、防災訓練などでも使用します。ガイナレ鳥取のサッカー教室でも利用されています。地区住民としては、園庭と同じような状態を維持したいという思いがあります。

同じグラウンドなので、園庭と同じようにスプリンクラー設備があれば助かります。2,050m²のうち、1,300m²が園庭ですので、残りは800m²弱です。その部分をスプリンクラーにしてもらえればと思います。

また、肥料代や冬芝代、芝刈り機の燃料代など維持管理にかかる経費については、コミュニティ育成支援事業交付金の「協働のまちづくり助成事業」を活用しています。乗用の芝刈り機なので、傷害保険も掛けています。そういったものも含めると約20万円は必要で、交付金の中で非常に大きな割合を占めています。まちづくり事業も進めていかなければなりません。豊実地区グラウンドの芝は地区住民の心のよりどころでもあり、大切にしたいと思っていますので、助成についても検討してほしいです。

それぞれ担当部署があると思うので一概には言えないと思いますが、また協議の機会をつくってほしいと思います。

（地域振興局長）

地区の方が水やりをされているのを拝見しました。今年の夏の暑い天候の中で芝が青々としており、よく管理されていると思います。

平成22年度の豊実保育園の芝生化に合わせ、残りの土地についてもまちづくり協議会

で芝生化されることとなり、市が、コミュニティ育成支援事業交付金の中に「協働による芝生化推進事業」を新たに設けた経緯があります。この助成制度は、芝を植える費用について1年度のみ助成を行い、その後は地域で自主的に維持管理していただくという条件でつくった制度です。今では、15地区のまちづくり協議会が、この助成事業を活用して芝生化をされています。

豊実保育園部分については、芝生化に当たって鳥取県の助成を受けており、スプリンクラーを設置しています。「協働による芝生化推進事業」とは若干趣旨や目的が異なります。

たまたま豊実地区は保育園と地区グラウンドが一体的ですが、管理主体が異なりますので、環境条件を整えるために新制度を設けることは難しい状況であるをご理解ください。

今後も引き続き、地域での自主財源や協働のまちづくり助成事業を活用しながら管理をしていただくなどの協力をお願いしたいと考えています。

(地元意見)

野坂ふれあいドームは平成11年に完成し、今年で18年目の建物です。建物の中は、公民館施設(注:集落集会施設)と加工場施設に分かれており、市の施設で運用を野坂部落に任されています。運営費用は野坂が全額負担しており、加工場が約40万円と公民館施設が約12万円で、年間50万円以上かかっています。

加工場の運営費用の40万円の内訳は、高いものから電気料金、水道料金、灯油代、ガス代、設備機器の点検費用となっています。一方、利用料収入は年間10万円ですので、差し引き30万円は、野坂の住民が負担していることとなります。利用料も、以前は20万円近くあった時期もありますが、ここ十五、六年の間に高齢化や農業従事者の減少により減ってきています。今後も、利用料収入が増加することは難しいと思います。

利用が減っているにもかかわらず、必要経費はほとんど変化がありません。経費が減らない原因の一つが、電気料金です。昨年1年間の1か月の平均電気料金は、200Vが56kwhで12,000円、それに対して100Vの平均電気料金は、196kwhで5,000円ですので、200Vの電気料金が非常に高いことが分かります。200Vの電気料金は契約料金ということで、電気の使用の有無にかかわらず契約料金が全額かかるシステムです。電気の使用量は非常に少ないですが、契約電力量が大きいいため基本料金が高いのが、今の実情です。

200Vの電源で動かしているのはボイラーの関連の施設と味噌加工用の練りの機械、そして空調装置です。空調装置は2基ありますが、年間で数回しか使用しません。ですが、これが電気料金をはね上げている一つの要因です。この200Vの空調装置を100Vにしてはどうかと、今年の7月に農村整備課に提案しています。

(農林水産部次長)

空調及び動力の電源に関する話は伺っています。ただ、年のうち数回であってもその動力を使用されるとのことであれば、やはり契約上は残す必要があるのかもしれないとも思います。設立当初の平成11年頃とは、使用の仕方や今後の予定が変わってきている部分もあると思いますので、細かい点については地域の皆様に相談しながら、今後の軽減策等に通じる部分があれば検討していきたいと考えています。

(地元意見)

もう一つ、経費が減らない原因になっているのは水道料金です。現在、40mm口径の管が入っていますが、実際の1か月の使用料は13m³で、一般家庭の半分も使用していません。これを20mm口径くらいにすれば約1/8の基本料金になり、水道料金を大幅に減らすことができると考え、これも農村整備課に提案しています。

固定費用をいかに減らすかを考えなければ、野坂住民の負担がどんどん増えていきます。ぜひお互いに協力しながら、何とか改善していきたいと考えています。

(農林水産部次長)

野坂地区の簡易水道は、現在配水管の整備を行ってきています。来年4月には水道局の管理になるため、9月か10月頃には、メーターの付け替えを検討しています。

40mmある口径を落としてはどうかのご提案ですが、口径を落とせば水圧が変わって施設利用に支障が出る可能性もありますので、少し検討させていただき、メーターの付け替えの頃までには、地域の皆様に相談させていただきたいと考えています。

(地元意見)

地方創生に関連した中山間地域の対策について市がどう考えているか質問したく、事前に提案書も提出しています。地方創生の問題は、市役所だけが一所懸命取り組んでも地域が活性化するというものではありません。地域づくり懇談会に参加される地区の皆さんも、どういう課題があるか認識しなければ、農村地帯、中山間地域の衰退を打破することはできないと思います。

(深澤市長)

鳥取市はもとより、全国で人口減少や少子高齢化が大きな課題になっています。この課題に立ち向かい、将来をどのように切り開いていくのかというのが、まさに地方創生の取り組みです。そういった取り組みを、地方自治体で、地域でしっかり取り組んでいかなければいけません。

鳥取市では、昨年9月30日付で「鳥取市人口ビジョン」と「鳥取市創生総合戦略」を作成し、いろいろな取り組みを展開していこうとしています。鳥取市は、定義にもよりますが市域の約9割が中山間地域であり、そこに人口の50%が居住しているという実態があります。したがって、中山間地域の振興なくして鳥取市の今後の発展はないと考えていくべきだと思います。

また、地方創生の取り組みに先駆け、鳥取市では平成22年に「鳥取市中山間地域対策強化方針」を策定し、毎年見直しを行いながら、さまざまな取り組みを行っています。その中で、「とっとりふるさと元気塾」を開塾しています。元気塾では、中山間地域でリーダーとなっていただく方を養成していくということで、いろいろな講座を開いたり先進地を視察したりしています。多くの方に参加いただいております。鳥取市ならではの取り組みではないかと思っています。また、市街地にお住まいの方と中山間地域にお住まいの方の交流を盛んにしていこうと、まちとむらの交流にも取り組んでいます。

まだまだ多くの課題、問題があると思います。例えば、買い物に不便を感じておられる地域もあります。どんどん集落の維持が難しくなっている地域もあります。一朝一夕で解決に向かうということにはならないと思いますが、鳥取市では、中山間地域振興を地方創生の中でも非常に重要な取り組みと位置付けていますので、今後もしっかり取り組みたいと考えています。

(地元意見)

豊実地区には、鳥取市と合併する前の昭和25年、当時の山本村長がなけなしの金をはたいて、県や市から多額の助成を受けて建設した豊実小学校がありました。しかしその後の鳥取市教育委員会の校区再編によって松保小学校と統合して世紀小学校が創立され、残念なことに豊実小学校は昭和43年に廃校となりました。

野坂川流域の一番奥に唯一残っている明治小学校の児童数は、現在30人ほどになっています。そして、「平成29年4月には明治小学校を廃校にして世紀小学校に統合する」という案が、平成25年の「校区審議会中間とりまとめ」ではっきりと書面として出されています。簡単には廃校にできませんが、いずれにしても児童数30人の小学校がいつまでも続くとは考えられません。

そうすると、昔から栄えた高草郡の真ん中にある豊実と明治に学校が全くなくなってしまう。小学生や中学生にとって、地域に学校が1つもない地区になってよいのだろうかとは私は思います。

人口減少が非常に著しく、児童生徒の数は激減しています。湖南地区や東郷地区も同様です。学校問題は非常にハードルが高いですが、地方創生の課題と絡め、何とかこの野坂川流域に学校が残るようお願いしたいと思い、市にも事前にいろいろな案を出しています。

本日は概略だけを話しました。市の所見をお聞きします。

(深澤市長)

我々は、児童生徒数が少なくなったから統合していけばよいという考えには、決して立っていません。通学距離や学校の状況、地域の皆様の思いや考え、そして一番大事なのは、子ども達にとってどういった形が一番よいのかということです。あまりにも人数が少なくなって、例えば1クラス数人で6年間を過ごすことが子ども達の将来にとって果たしてよいのかどうか、こういったことは地域の皆様とともに考えていかなければならないことだと思います。また、保護者の皆様のいろいろなお考えや思いもしっかり伺っていかなければなりません。

非常に大切な問題ですので、学校のあり方を考える検討組織を各地域で立ち上げていただき、地域の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

(教育委員会事務局次長)

明治小学校は、小規模転入制度により、校区外から10名の児童が通学しています。明治小学校について、平成30年に統合といった方向性は出ておらず、地区で学校のあり方を考える検討組織を立ち上げておられます。

保護者の方あるいは地域の方、いろいろな立場の方がさまざまなご意見をお持ちだと思

います。組織等を立ち上げて議論していただき、教育委員会あるいは校区審議会等にご意見をいただければと思います。

8 市長あいさつ

一言、お礼のご挨拶を申し上げます。

限られた時間で、十分にご意見、ご質問等をいただけなかったかと思えます。また、2年に一度の開催ですので、地域づくり懇談会とは別の機会でも、いろいろな形でご意見、ご提言等をお寄せいただければありがたいと思えます。この懇談会にかかわらず、いろいろな場面でしっかりと意見交換をさせていただきたいと思えます。

本日の懇談会では、前回もご要望いただいた市道宮谷布勢線の整備についてご要望をいただきました。整備に向け、しっかり取り組んでいきたいと思っていますし、改めて山陰道西道路につきまして、当豊実地区の皆様にご理解、ご協力を賜っておりますことに、心から感謝申し上げたいと思えます。国土交通省は、仮称吉岡温泉インターから青谷までは平成29年度中に供用開始すると言われております。我々としては、できれば、鳥取西インターから吉岡温泉まで同時に整備していただきたいと要望しているところです。できる限り早い段階で西道路が供用開始になるよう、期待を寄せていきたいと思えます。市道宮谷布勢線は西道路と大いに関連がありますので、いろいろ協議させていただきたいと思えます。よろしく申し上げます。

地方創生と中山間地域振興等についてもご質問をいただきました。これは非常に大きな課題ですので、本日の懇談会の時間が不十分で申し訳なく思っています。引き続き、全庁一丸となって、また市民の皆様と一緒に、この課題にも向かっていきたいと考えていますので、さまざまな場面でいろいろなご意見をいただきたいと思います。

熱心にご議論いただいたことに心から感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。